

## 平成21年度入学式祝辞

有川総長、各学部長、教授の皆様、新入生の皆様、おはようございます。

ただいまご紹介にあずかりました国立台湾大学の李嗣涔(Si-Chen Lee)でございます。九州大学に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。並びにご家族の方々に心からお祝いを申し上げます。

有川総長のお招きで台北から福岡に参りました。本日、貴学の入学式という、この晴れやかな式典に参加することができ、大変光栄に存じます。そして、皆さんが貴学の新生となられたことに、私自身、大変な喜びを感じております。私は国立台湾大学の総長を務めさせていただいておりますが、皆さんもご存じのとおり、国立台湾大学の前身は旧台北帝国大学でありまして、1928年に創立されました。九州大学より17年ほど後に創られたわけです。しかし、共通の出身であるだけに、同じ系統と風格、建築様式を保っております。貴学に対して大変な親近感を感じております。

本日から皆さんは、晴れて、日本中の多くの学生が目標とする九州大学の一員となられたわけですが、この日に至るまでに、皆さんがどれほどの努力を重ねてきたか、想像に難くありません。また、そういった弛みない努力によって一つの目標を達成させたことは、大変に喜ばしいことです。しかし、その一方で、喜びに浮かれることなく、今一度考えなければならないことがあります。やがて訪れる人生の黄金期に向けて、どのようなイメージを描き、どのような道筋を設計するのか、ということです。

周知のように「大学」は、人生における最も重要な学習の場であります。ここにおいて、「専門知識や技能」が習得され、「価値観」が形成されます。つまり、将来、皆さんがどのような人物となるのかを決定づける最も重要な時期が、この大学時代に当たるわけです。それでは、新入生の皆さんは、人生の基盤を作るこの四年間をどのように過ごすべきなのでしょう。皆さんが真の知識人となるために、各部門での重要な担い手となるために、そして、様々な分野でのリーダーとなるために、人生の先輩として幾つかの助言を申し上げたいと思います。

大学時代においては、少なくとも以下に述べる四つの姿勢を心がける必要があります。

### 一、急速に変化する現代社会に対応するために幅広い基礎科学の知識を得ること

21世紀はいわゆる知識経済の時代です。ITの普及とハイテクノロジーの急速な発展により様々な知識が大量に累積し、社会や産業の形態は目まぐるしく変わっています。10年後には、現在まだ存在していないテクノロジーや産業が創出されるかもしれません。こういった世の中の変化と向き合うために、大学では何をどのように学べばよいのでしょうか。対処法はほかでもありません。広範に各学問の基礎知識を学習しておけばよいのです。例えば、物理、化学、数学、生物、そして文学や歴史学、哲学などを古典から読み、自身の教養を深め、基礎を作っておくことです。さらには、基本的な情報処理能力も身に付けなければいけません。様々な経験をし、知識を吸収することで自らを「教養人」とさせる必要があるのです。これにより、急激に変化する世界において、方向を見失うことも遅れをとることもなくなるでしょう。

## 二、自分の個性を作り、革新的なアイデアを生み出す力を身に付けること

本日、新たに2686人の新入生がこの九州大学の構成員に加わったわけですが、同時に中国では50万人、インドでは42万人の、皆さんと同じくらい優秀な学生が優れた大学の門を叩きます。彼らの生活水準は日本ほど恵まれたものではありません。しかし、そうであるがゆえに、彼らのハングリー精神や向上心、また、忍耐力は、他の地域の比ではないのです。グローバル化の進展によって産業競争は一層激しさを増しています。もはや避けることができない彼らとの競争に際して、皆さんは何をすべきなのでしょう。キーワードは「革新性」です。それは、自らの個性、すなわち「自分らしさ」と独創的な発想を磨き上げること、そして、常に挑戦的な夢を掲げ、その夢を実現させようとする勇氣と強い意思を持つことによって可能になります。「自分らしくあれ」と言っても、それは、薄っぺらな思想で好き勝手に振舞うとか、単なる目立ちたがりとか、そういったことを指しているわけではありません。本当の意味で「自分らしく」あるためには、多方面から知識を吸収し、それを探究して、自分の才能と適性を認識することが大切です。それによって初めて、人とは異なる能力を備えているという認識が生まれるのです。この個性と革新能力こそが、自分の存在価値と将来の発展を確保する最も重要な鍵である、ということをお忘れずにいてほしいと思います。

## 三、人類社会が抱えている危機に関心を持つこと

とめどなく発展を続ける科学技術と蔓延する利己主義によって、人類は今だかつて経験したことのない危機に直面しています。自然資源の枯渇や地球の温暖化、さらには人間関係の希薄化やモラルの低下といった問題に至るまで、今日の人類が抱える問題は自らの社会の存続さえも脅かそうとしています。このような状況にあって、一大学生としては、人類の生存に関わる様々な問題に絶えず関心を持ち、よく観察して考えを巡らし、解決策を導き出そうと努力しなければいけません。オランダの哲学者スピノザが「この大学を通じて宇宙の精神に貢献すべし」と言ったように、一人一人が最善を尽くし、地球人としての責務を果たすことが大切なのです。

## 四、鋭敏な国際感覚で新興国家の文化や政治経済的状況を理解すること

現代は既にグローバル化の進展した時代であり、国家と国家の間で、または民族と民族の間で盛んに交流が行われています。国内にある様々な産業も、製造業であるかサービス業であるかを問わず、多国籍企業の形態をとるものが増えています。このような状況に対応するために、大学生は海外へと目を向け、国際感覚を養い、世界各国の文化や政治経済的状況への洞察を深めなければいけません。とりわけ、ブラジル、ロシア、インド、中国といった BRICs と呼ばれる新興国家の動向には注目しておく必要があるでしょう。「先んずれば即ち人を制し、後るれば即ち人の制するところとなる」と漢書にあるように、世界の様々な国に関する知識を蓄えておくことで、先見の明のあるグローバル戦略が可能となるのです。将来、こういった力を試す機会が皆さんにも訪れます。その力を存分に発揮することが企業や国家の発展へとつながっていくのです。

新入生の皆さん、以上に述べた姿勢を心がけて努力を重ねていけば、必ず皆さんの前途は明るく光り

輝くはずです。皆さんが大学生となった最初の日に、私は以上の四つの助言を皆さんに送ります。四、五年後、皆さんが立派な国際人として成長し、自分を誇りに思える人物に育ち、九州大学という大きなファミリーに輝きをもたらすことを固く信じております。貴学の総長室には、中華民国(台湾)の国父である孫文氏の貴重な書<sup>しょ</sup>が掛けられています。この書は、1913年、孫文先生が九州大学を来訪した時に書かれたものだそうです。ここにある「学道愛人」という四文字は、九州大学の全ての人々に送る、「学問の探究を通じて世界を愛する」という意味のメッセージです。百年後の私も同じ願いをこめて、この祝辞を締めくくりたいと思います。

本日は誠におめでとうございます。最後に、九州大学のますますのご発展と、ご臨席の皆様のご健勝をお祈りし、本日御入学された皆さんが充実した学生生活を送られますよう祈念致しまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

平成21年4月7日  
台湾大学総長  
李嗣涇(Si-Chen Lee)